

昭和二十八年一月十三日認可
二七福通炭業認第三八號

杉谷坑鑛業施業案



福岡通商産業局

2 福岡通商産業局第 1278 號

昭和 27 年 7 月 13 日

福岡縣 探掘 地 登録 第 1278 號
" 租 地 " 10 "

炭 礦 名 曰 吉 炭 礦

開 採 者 共 同 石 炭 炭 業 股 份 有 限 公 司
株 式 公 司

福岡通商産業局長 桧 野 幸 雄

炭 業 施 業 案 の 認 可 に つ い て

昭和 27 年 7 月 27 日附申請(受理)の日を炭礦

利 益 坑 の 炭 業 施 業 案 は 炭 業 法 第 六 十 三 條 第

二 項 に よ り 認 可 す る



企畫課

杉
谷
坑

追加設備費

共同石灰炭礦株式會社
目 次 炭 礦 所



高田縣志卷之六
國郡租額登錄第一〇



函開錄其校勘卷錄第一二七八號



飲 業 施 案

東京都中央區南一丁目 一番地
鐵道省 共済中央鐵道株式會社
代表取締役 八木 文太
飲業代理人 宇佐 見 藏

一、飲業の所在地および面積

福岡縣嘉穂郡稻佐町、大隈町地内

面積 其六三三アール（七〇四〇坪）（租金第一ノ段）
二、探掘の登録
福岡縣稻佐町鐵道登錄第一〇號

三、飲山および石炭坑の名稱

日吉炭坑 杉谷坑

四、目的とする飲物の名稱

石 炭

五、探炭または探炭に關する事項

4 地質の状況

當飲區一帯は、山地丘陵地で、地質は第三紀層に屬し、頁岩、砂岩、砂質頁岩、礫岩で成層し此の間に竹谷、本層、大瀧の三炭層群を含み竹谷層群は飲區の北部に露頭し、本層群は飲區の稍中央に露頭し當飲區の略三分の二の地域に埋藏す、

大瀧層は當飲區外南部に露頭し當飲區に向つて傾斜し飲區全部に埋藏するが本飲區の母岩である日鐵相模炭飲の採掘權に屬す、

炭層深度は竹谷、本層間は七〇米、本層、大瀧層間は二七〇米で斷層は飲區中央部を東西に通斷する深下り二五米斷層あり、

本層群中の海軍八尺、土間八尺の二炭層は火成岩の侵入を受け無燧、燧石に變化し炭層もボケツト狀を呈する地域多々あり、(地質圖に顯示)

2 主要な炭層の位置、走向、傾斜および厚さ

當飲區の主要炭層は竹谷層群の竹藪八尺上層、全本層と本層群中の杉谷五尺、御地五尺、土間八尺、海軍八尺の炭層であるが現在採掘中の炭層は御地五尺、海軍八尺層を海軍八尺炭で採掘中である、

今回地質調査を提出する杉谷坑は昭和七年頃まで日鐵相模炭が採掘した區域の肩郭に當る露頭附近約壹萬貳千參百平方米の杉谷二尺層、杉谷五尺層を採掘し別紙炭柱圖

の杉谷三尺層は低品位炭であるので採掘しない、

炭層の走向は概ね一二五度北東に向つて七八度傾斜す、

炭層の厚さは左の如し、

杉谷二尺層 山丈一〇五米 炭丈一〇一、一八米

杉谷五尺層 山丈一三二米 炭丈一、〇八米

よ埋藏炭量および可採炭量

地質調査による杉谷坑の埋藏炭量・可採炭量

種別	炭層名	山 丈	炭 丈	炭層面積	炭層厚	埋藏炭量	可採炭量	埋藏炭量	可採炭量
確定	杉谷二尺層	105	101	1237	1.3	0.97	1193	60	7180
・	杉谷五尺層	132	128	1493	1.3	1.47	2193	80	1756
	計						14122		8936

炭量計算基礎は別紙圖面による

註 入右層の可採量を低く見たのは調査の地質調査が多いのと炭質の含有率が低いので安全炭量とした

名探炭の方法

探掘予定區域は約壹萬貳千參百平方呎で可採炭層約八千九百延の小區域であり該探掘區域の右は深上り二米斷層があるので小區域進げよる探掘で月產五〇〇延を目標として計畫す。

本卸を飯島新第三號より二〇五三・八分一・九五米二の位置で杉谷二尺層露頭地點より二・X二一・米の加算で新坑を方位五五度一八分傾斜一四度二〇分の沿層掘進を開始し坑口より水平距離六〇米の位置に左一片壁を取り本卸炭柱を獲し杉谷二尺層を柱房式により探炭を開始す。

本卸は全方位に掘進し左一片下部四〇米の位置に左一片壁を取り左一片探炭終了後切羽を左一片に移行する。

坑口より一四〇米で杉谷五尺層古洞に貫通するが杉谷二尺層が獲つてゐるので該炭層探掘のため本卸を取明掘進し坑口より同方位に傾斜で二〇七米六掘進し中止する。該區域の杉谷二尺層は下層杉谷五尺層探掘後二〇年を経過してゐるので沈降もみままつてゐると思われるので左二片下部四〇米の位置に左三の片壁を取り柱房式探炭をなす。

本卸左部斷層間の炭柱は各片壁探掘時期に柱柱式になり探炭す。

探炭坑は飯島新第三號より三五八度一七分二二米一の位置で杉谷二尺層露頭地點に開坑左一片壁より昇向に該地點に向つて掘進貫通す。更に下部左一片壁より全方位に昇つて探炭卸に貫通せしむ。

以下は本卸と併行方向に二〇米の距離で設け探炭卸となす。

探炭には電氣ドリル、チエンコンベヤーを使用し探炭方法は別紙幾何圖に示す。

尚主要卸間の保安炭柱及杉谷五尺層は探掘終了後過時に探掘するものである。

ふ一年間における予定出炭高

年產一六〇〇〇延

六 運搬に關する事項

坑口から四九一・米の境外に五〇馬力電氣帶揚機を設置し本卸炭運は一〇キロ軌條を敷設し範圍は五〇〇噸で容量〇六五立方米の木製炭車を使用する。

切羽は五馬力チエンコンベヤーで戸壁口まで流し炭車に受け片壁は手押し巻立口より坑外帶揚機で捲上げ中繼地點まで流込むれより三坑帶揚用の五〇馬力帶揚機で中繼し炭車運搬起點まで流込む三坑の炭面と一階に四馬力帶揚機で才田坑運炭場へ送る。才田坑運炭場で水洗選炭したる精炭は五〇馬力エンドレス巻で箱鋼輪式機に送り

省銀貨車に積込する。

七 選炭に關する事項

杉谷坑の坑内原炭は才田坑の坑内原炭と一併にし才田坑選炭場で選炭する。

才田坑選炭機に集めた原炭を電動チフフで轉運容量二〇噸のホツムーに入れホツパーよりワイダーでジシマースクリンにかけ五〇吨以下に破砕し原粉と別ける。

原炭は毎時二〇噸のピツキングバンドで精選、二號、破に手操し塊は毎時二〇噸のベルトコンベヤーでボケットへ送る。

二號塊はシュートで毎時五噸のダブルローラウツシャーで二五吨以下に破砕し更に洗二號破砕用ダブルローラウツシャー（毎時五噸）で一五吨以下に破砕し原粉とし洗二號と一號に毎時一五噸のボケットエレベーターで原料粉ベルトコンベヤーへ入れる。

ジシマースクリン下の五〇吨以下の原料粉は毎時二〇噸のベルトコンベヤーで水洗機へ送る。

水洗機はバウム式二〇噸で水洗機により洗粉、二號塊に選炭し洗粉はトロンダルに入れ二五吨以上を洗中塊でとり中塊ベルトコンベヤー（毎時一〇噸）でボケットへ送る。

洗粉はピットに入れ毎時一五噸の水切ボケットエレベーターでボケットへ送る。

洗粉ピットよりの水洗水を水槽に入れこれを丁式浮選選炭機（毎時五噸）を通過し微粉回収をする。微粉炭は木桶で貯水槽へ流し脱水の上好炭する。

微粉回収後の水洗水は回収するが水槽よりオーバーフローしたる水は循環水として循環水槽へ入れ使用する。

水洗水の放流については丁式浮選選炭機により微粉を回収すると共に沈澱槽を作り淨水の上放流する。

水洗機は毎時一五噸のボケットエレベーターで破ボケットへ入れボケット下で炭車に受け炭拾場まで五〇馬力巻揚機で運炭する。

ハ換氣上の危害防止に關する事項

ノ通氣排水溜りおよび發炭に關する事項

通氣設備は排氣坑に一五馬力二〇立方米の主要扇風機を設置し本坑を入氣坑道として片輕より切羽を掘じ扇風機を出て排氣坑へ排氣する。

風通の必要なる箇所には門扉、漏風防止の目的を行ひ掘進に際しては必要に應じ風管、排出等の施設をなす。

通氣測定は毎週一回以上施行し通氣を良好ならしめ瓦斯發見機設置は萬箇面のないやう處置する。

杉谷坑深部は前述の如く巨礫層盤に於て採掘であり深部は日吉一坑と連絡して居り一坑坑内の水位は散賣場箇所より約二〇米下であつて一定してゐるから散賣場區域の古例の溜水はないが地表からの浸透水及湧水量は三、五立方尺程度と幾同するで二〇馬力三〇立方尺の電氣タービンポンプを設置し時期屆には適量の排水設

備を増設す。

坑内照明は0.8燭キヤツプランプを各人に携帯させ使用終了後は安全係員に返還させ係員をして精密に検査なさしむ。

坑内發破は重車ドリルで鑿孔し硝安燈藥、新橋ダイナマイトを充填し機燃導火線で點火を行ひ發破する。

火藥類の運搬は指定鉱山労働者に經辦させ取扱は火藥係員に受拂をなせしめ信用證は坑内火藥取扱所に保管する。

發破に際しては發破係員は天錨、炭酸の状況を検査し保安規定に定めたる發破事項の遵守事項を確認の上發破を行ふ。

2 作業の安全その他人に對する危害の豫防に關する事項

瓦斯檢定については保安係員に本多式瓦斯檢定器を常時携帯させ檢定を行ひ隨時運研瓦斯千分計により更に精密檢定する。

坑道は、坑木で押入し枠間は成木でつなぎ、天錨、鋼線、鋼索の崩落を防止し切羽は打柱荷合枠を施し採掘部は木壁、炭粉充填する。

日鐵精炭採掘區域（古洞）は日吉一坑と連絡してゐて水位は連絡箇所より約三十米下にあつてゐるから（一坑で確認してゐる）協業區域の古洞は雨水のおそはないと思はれるが本洞が古洞に近接する等の位置から、又は上の先施鑿孔をなした

ことを確認する。

坑内各卸坑道には農車邊地防止裝置をなす農車運轉坑道は車道と人道との間隔を適當にとり車運は常時補修し脱線その他事故を防止する。

坑内給電線は燈籠ケーブル、キヤブタイヤーケーブルを使用し保安係員をして監視させ漏電、感電事故を防止すると共に必要に應じ適當なる器具の使用をなす發破時に發破係員は發破前に労働者に警笛および通符を行ひ周知させ危險外の地點に退避したことを確認の上發破を行ふ。

3 坑外または坑内地設の保全に關する事項

坑内に於けるポンプ室、變電設備箇所、火藥取扱所は防火構造とし消火器、乾燥砂を備付け機液器具は保安係員をして具狀の有無を檢査する。

坑外に於ける施設は現在の才田坑の施設を利用するので巻揚機、事務所等を新設し消火器、水灌防火用砂を備付け保安係員を監視させ施設の保全に留意する。

鉱業法第六十四條該當物件はない。

此等の防止のための施設に關する事項

4 貯炭場および捨石の堆積場の位置および構造

坑外地設等の敷地は原野地帯にて當社所有の土地である。

坑内側の堆積場は日吉一坑、二坑（南坑共現在休業中）の便所場を利用し且附近

に民衆、施設物件はないので鉄管による被害は起らない。

灌漑方法は巻揚機で巻揚げたる捨石を運込みにより間地點まで農車で運搬し横打とする。

(4) 汚濁水、水脈等に対する處理施設に関する事項

坑内水の放水は坑外沈澱池を作り鉄水汚物を沈澱の上放水する。

水脈に対する被害は當該において給水設備をなしてゐるので起らないので施設は別に必要をさざるものとす。

(5) 其の他

探掘區域は原野地帯で當坑の所有地および借地區域で膠濟路を以て隔落に関する紛議は起らない。

又、重複飲風または間接飲風の飲灌權者との換藥の調整に関する事項

地業案による探掘區域は日鐵松英鉄の租飲權設定區域であるが日鐵松英鉄行炭層大施層とは間隔二五〇米におよび深度大なるため換藥上の調整事項はない。

其の他換藥上の調整事項なし。

以上



- 第一圖 坑外圖(鑛區圖)
第二圖 坑內圖
第三圖 石炭坑，範圍圖
第四圖 埋藏炭量計算圖
第五圖 炭層柱狀圖
第六圖 採炭規格圖
第七圖 地質圖

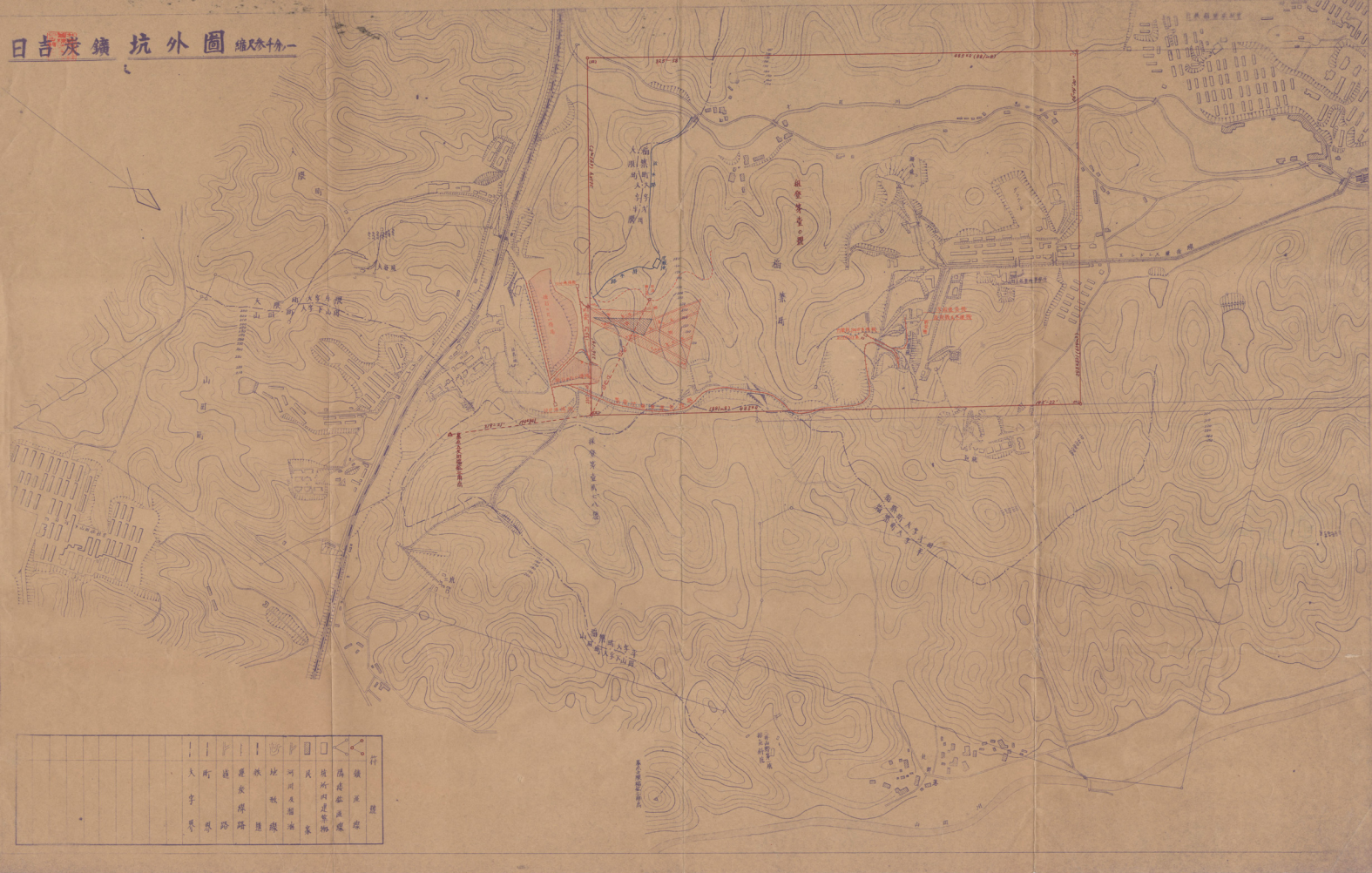
第一圖

坑外圖 (鑛區圖)

坑口之比例

$\frac{1}{2000}$

日吉炭鑛坑外圖 縮尺千分一



第二圖

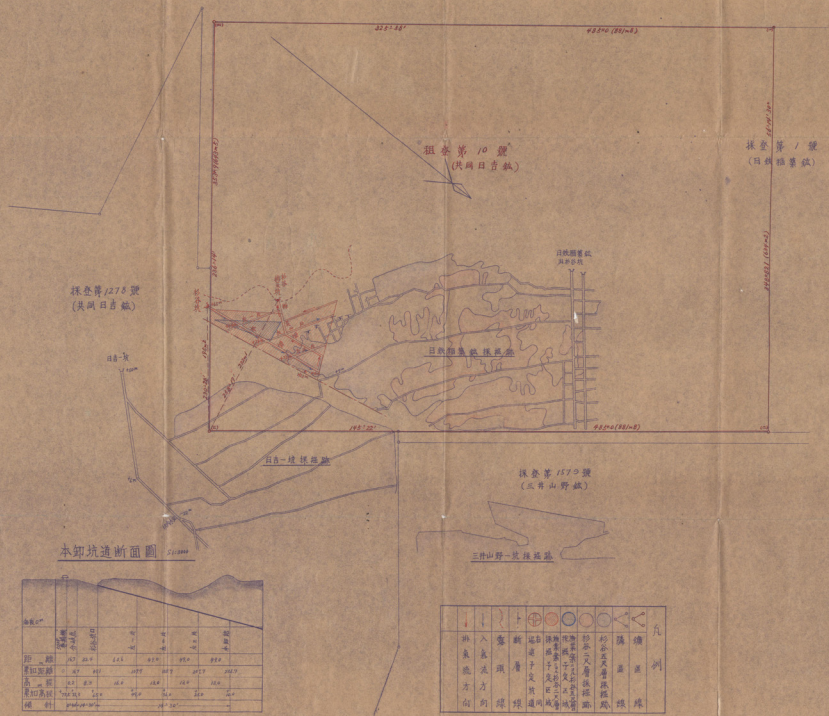
坑內圖

$S \frac{1}{3000}$



坑內圖

縮尺三千分一



第三圖

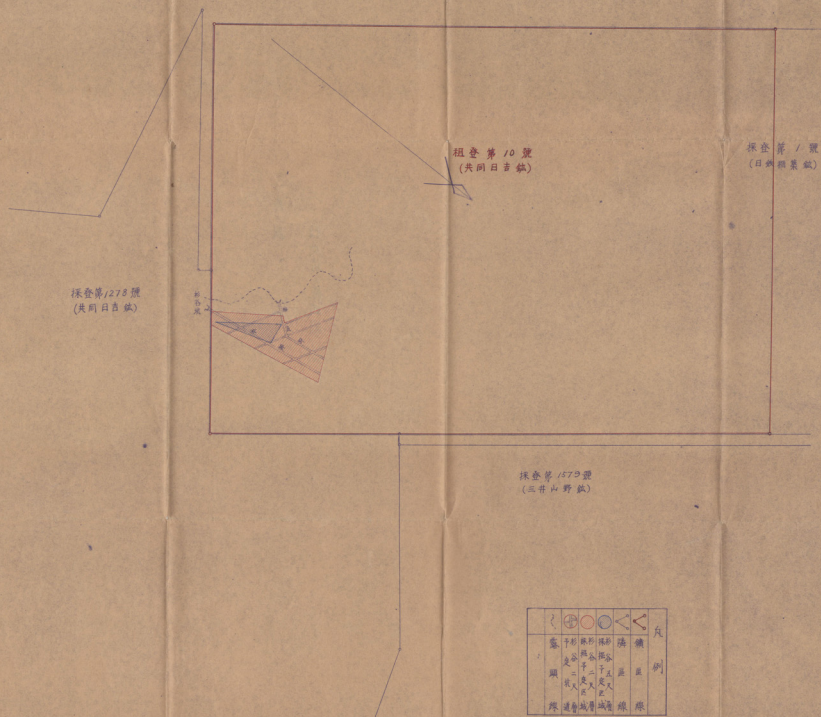
石炭坑の範圍圖

$\frac{1}{5000}$



石炭坑の範圍圖

縮尺三十分一



第四圖

煙藏炭量計算圖

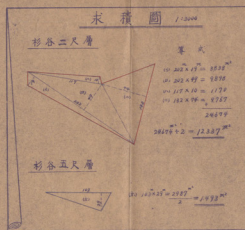
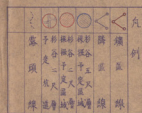
$$5 \frac{1}{10000}$$

埋藏炭量計算圖

縮尺三千分の一

埋藏炭量、可採炭量計算表

类别	发育层	山尖	尖大	断面面积	计算	断面面积	埋藏发育	可采率	探明埋藏量	备注
确定	砂岩二夹层	1.05	4.71	12.247	1.3	0.97	11.567	60	8180	
"	砂岩五夹层	1.02	4.68	11.939	1.3	1.97	2.195	80	1756	
	计						14.162		8936	



第五圖

炭層柱狀圖

5-5'

炭層柱狀圖



第六圖

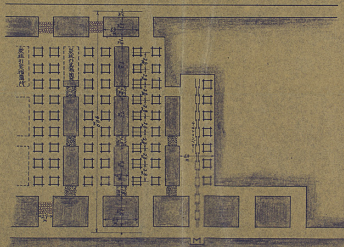
採炭規格圖

$\frac{1}{300}$



柱房式採炭規格圖

縮尺三釐一



第七圖

地質圖

1/5000

福岡縣嘉穂郡稻築町才田

共同石炭鑛
業株式會社
目吉鑛業所

電話 一四〇番
大限一四番



本 館 發

福岡縣嘉穂郡稻築町、大隈町地内、福岡縣採掘業事務所管轄鑛
内の一區に貴社を以て經營權限を許可したる福岡縣組鑛權登
録第〇號組鑛區域内（別紙圖示）に於て別紙地盤案による杉
谷二尺層、杉谷五尺層の探掘を承諾致します。

昭和二十七年七月二十日

福岡縣嘉穂郡渡村枝國六六六管地

日鐵鑛業株式會社二關展館

右館代理人 小 倉

進



共同石炭鑛株式會社
社長 入交 太 蔵 殿

縮尺三千分の一

48500 (25/100)

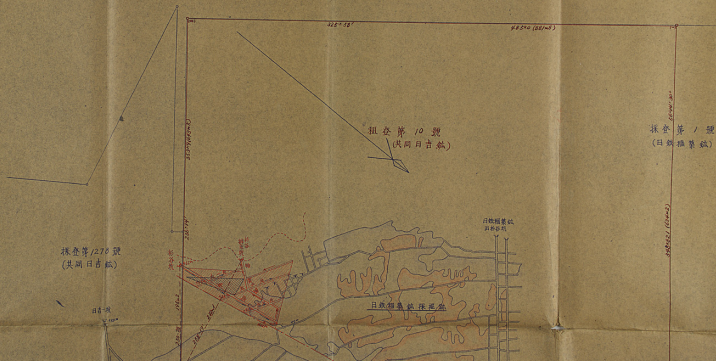
採査 第 1 號
(目録 採査 録)

川崎 橋 築 設
採査 録

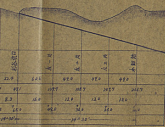
48500 (25/100)

6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

坑內圖 縮尺三千分一



永登簿1278號
(共同目吉鑑)

[illegible]

日德一城

日姓福第
訓卷各規

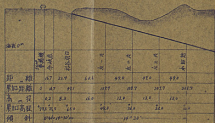
日致相學鈔擇經解

日吉一境 概經路

探登第 1579 號
(三井山野坑)

三普山野一景 探經路

本卸坑道断面圖

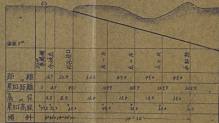


									凡
掛氣流方向	入氣流方向	露頭線	斷層線	等高線	河流注入口	杉谷五叉路注陸跡	溝渠	鐵道	例

4. $\frac{1}{2} \log 2 \in (\mathcal{L}(\mathcal{P}(\mathcal{M}_2)))$

坑內圖 縮尺三千分一

本卸坑通断面圖



一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
相氣流方向	入氣在方向	斷骨線	右斷骨足背	左斷骨足背	右斷骨足背	左斷骨足背	右斷骨足背	左斷骨足背	右斷骨足背

